



ごみ拾いボランティア体験記

吉林省・吉林市朝鮮族中学校 高2（女）

潘 玉蘭

私が住んでいる吉林は自然に恵まれているきれいな町です。毎年観光客もたくさん集まってきます。私はきれいな故郷をいつも誇りに思っています。特に家の近くにある竜潭山に深い愛情を持っています。それはおじいさんとのいい思い出がたくさんある山だからです。また、私のごみ拾いボランティアの体験もこの山で始まったからです。

小さい時、おじいさんは私を連れてよく竜潭山に登りました。私はおじいさんと山登りをするのが楽しかったです。おじいさんは私に山の木や花や草の名前を親切に教えてくださいました。おじいさんは山に登る時はいつも袋を持っていきました。山のごみを拾うためでした。竜潭山はあまり高くないし、景色もきれいですから毎日山に登る人が多いです。ですから、登山者が捨てた空き缶、弁当箱、ビニール袋などで山は汚くなります。おじいさんはいつも山に登る時と下りる時はごみを拾っては袋に入れました。はじめはそんなおじいさんが理解できませんでした。それで自分が捨てたごみでもないのになぜ汚いごみを拾うかとおじいさんに聞きました。すると、おじいさんは「蘭ちゃん、蘭ちゃんもきれいな山が好きで、汚い山はきれいだろう。誰もごみを拾わないと山はもっと汚くなるんだ。」とおっしゃいました。その時から、私もおじいさんと一緒にごみを拾い始めました。

学校でごみ拾いボランティア活動を行なうたびに、私はクラスメートを誘って、竜潭山へごみを拾いに行きました。ごみを拾うことはあまり楽なことではありません。山に登ることだけでも疲れているのに、ごみが入れてある重い袋を持って登るのはとても苦しいことでした。それにごみは汚いし、いやな匂いもしているから気分が悪くなる時もよくあります。でも、一番悲しくて腹が立つことは私たちがごみを拾っている時、自分の行為に少しも心に責められないで、勝手に汚いごみを捨てる登山者の行為を見る時です。

しかし、私たちの努力によってきれいになった山を見るとボランティア活動のやりがいを感じられて気持ちがよくなります。

高校二年生になった今も、たまにごみを拾いに竜潭山に行きます。でも、以前はただごみを拾うことだけが私の義務だと思いましたが、今はちょっと考えが変わりました。ごみを毎日拾っても、次の日は環境保護の意識を持っていない登山者によってまた汚くなります。ですから、ごみを拾うことだけでは、また私たちボランティア参加者たちの努力だけではごみ問題は解決できません。何よりも、登山者自身のごみを捨てず、ごみ袋を携行して持ち帰るというマナーが徹底されなければなりません。

ごみ問題は私たちの身近な問題です。みんなが一緒に力を合わせて努力して解決しなければならない問題だと思います。

もし、山登りをする時は、ごみ袋を携行して自分が出したごみを勝手に捨てないで持ち帰ると、山のごみはすこしずつ減るのではないのでしょうか。また、残った食べ物を鳥や動物にあげ、食べ物のごみは土の中に埋めるのもごみを減らせるいい方法だと思います。もう一つはリサイクルすることです。飲んだミルクやジュースなどの箱と瓶は捨てないで、きれいに洗ってそれを集めて、リサイクル工場に持っていきます。できることは他にもたくさんあると思います。

私は山の環境を保護するために私たちに出来ることはなんだろうかとクラスメートたちと話し合ってみました。そして、登山者の環境保護意識を高めるためにクラスメートたちといろいろな工夫をしてみました。

まず、山の入り口や頂上、また登山者が多く利用する登山道周辺に「竜潭山はみんなの山です。」「山のきれいな環境はみんなの努力にかかっています。」「あなたの努力が山の環境を変えることができます。」「ごみはかならず持ち帰りましょう。」などと書いた掲示板を立てました。

それから、ごみ拾いボランティア活動にもっと積極的に参加して、登山者の手本になるように努力しました。ごみを勝手に捨てる登山者に会ったら、勇気を出して環境に対する彼らの無責任な行為を反省させる努力も試してみました。初めは見知らぬ人に話をかけるのが恥ずかしくて迷いましたが、今はもう慣れてきて、私たちを無視した人たちの中で自覚的にごみを持ち帰る人がだんだん増えてきました。

また、山の入り口でゴミ袋を携行していない登山者にゴミ袋を提供する方法やゴミを勝手に捨てる人には罰金を科す方法も考えてみましたが、また実行できませんでした。それは市政府の協力が必要ですから、早いうちに解決できると信じています。

今日の竜潭山はみんなの努力によって、登山者が多く利用する登山道周辺では、ゴミをみかけることはほとんどなくなっています。

でも、残念ながらそれ以外の道路わきには今もまだゴミが少なくないです。ゴミ問題は簡単に解決できる問題ではありません。ですから、これからもゴミ拾いボランティア活動に積極的に参加し続けます。また、人々の環境に対する意識向上にも少しでも力を貸してあげたいです。環境保護は一人一人のマナーにかかっています。

竜潭山もいつかはゴミがないきれいな山になる日がくるだろうと私は信じています。